

日本神経化学会
2021年度総会議事録

日 時：2021年10月1日（金）12：20～13：00

会 場：Zoom ウェビナー

議 長：和中明生 大会長

副議長：岡野栄之 理事長

出 席：出席 134 名，委任状 164 名（会員総数 1,196 名・議決権数 873 名・定足数 88 名）

議 事：

1. 理事長報告

岡野栄之理事長より、今年度からの理事長就任の挨拶の後、9月21日に発出した「理事長だより」を引用し、本学会の目指す方向について説明した。今回から理事長と大会長よりメッセージとして大会毎に「〇〇宣言」を出していく。今回は「奈良宣言」として発出する。

第 64 回日本神経化学会大会・「奈良宣言」

日本神経化学会は、分子・物質・細胞そして疾患をキーワードとして、基礎－臨床の緊密な連携と手厚い人材育成を特徴とし、開設の1957年以来、神経研究を牽引する「先導者」としての役割を担って来ました。

一方、神経研究にも、Optogenetics、ゲノム編集、シングルセル解析、AI技術など新しい技術が怒涛のように押し寄せて来ており、研究の手法やモダリティーが大きく変わりつつあります。

この様な状況の中にあっても、本学会は、その発足当時からのテーマと伝統とスピリッツ、そして仲間達を大きな羅針盤として、分子・物質・細胞そして疾患を追い続け、それに立脚した人材育成を武器に、「ウサギとカメ」のカメが持つ実直さを併せ持つ「先導者」として、神経研究の新しい地平線を目指すことを宣言致します。（奈良宣言）

理事長・岡野 栄之： 大会長・和中 明生（2021年10月1日）

2. 理事選挙結果報告

照沼美穂庶務担当理事より、選挙結果について報告があった。新理事、新委員長が紹介された。

3. 庶務報告

照沼美穂庶務担当理事より、会員状況について報告があった。

4. 会計報告

議長の和中明生大会長より、詳細については議題第9及び第10項にて報告のうえ、審議とする旨説明があった。

5. 出版・広報報告

等誠司出版・広報担当理事より、以下の通り報告があった。

「神経化学」60-1 を 2021 年 6 月末に発行された。通常記事の他、「私と神経化学」も掲載。

「神経化学」60-2 は 2021 年 12 月末発行予定。

「委員長だより」も順次、新委員長へ執筆いただくのでご一読いただきたい。

6. プログラム編成報告

和中明生大会長より、第 64 回大会開催状況について、以下の通り報告があった。

- ・ コロナ禍でのオンライン開催に多数ご参加いただいたことに感謝する。
- ・ 二つの特別講演より開始し最先端のご講演を賜った。
- ・ 理事会企画シンポジウムでは初めての試みとして高校生に参加いただいた。
- ・ 臨床連携、将来計画の合同シンポジウムも期待いただきたい。
- ・ 一般講演、ポスターも多数応募いただいた。オンデマンド配信となるが chat を通じて議論を深めていきたい。
- ・ 若手道場、若手育成セミナーに多くの意欲的な若手研究者の参加に感謝する。

7. 各種委員会報告

① 将来計画委員会

田中謙二委員長より、以下の通り報告があった。

- ・ 8 月の脳科連にて本会の特色について、分子と病態、国際性、若手育成の理念など説明した。
- ・ 本会としては、分子と疾患をキーワードに産学連携、社会実装を推進し、人生育成についても力を入れていく。この委員会で引き続き議論をしていきたい。

② 出版・広報委員会

等誠司委員長より、以下の通り報告があった。

- ・ 機関誌「神経化学」Vol. 60 No. 1 は通常記事の他、フィンランドからの「海外だより」も寄稿いただいた。シニアの先生方に連載寄稿いただいている「私と神経化学」も是非一読いただきたい。ホームページにも掲載している。

③ シンポジウム企画委員会

牧之段学委員長より、以下の通り報告があった。

2022 年沖縄大会での理事会企画シンポジウムについて、テーマを「エクソソームと神経化学、がんから神経へ」として演者を決定した。エクソソーム、がん研究と神経化学との今後の連携を深めていきたい。

④国際対応委員会

味岡逸樹委員長より、以下の通り報告があった。

- ・年初の ISN 理事選で和中先生が当選された。
- ・第 1 回 ISN-APSN オンラインスクール：2021 年 7 月 27 日に開催された。
- ・APSN 大会のオンラインスクール(2021. 12. 9-10)：締切は 2021 年 10 月 14 日
- ・Neurochemical Research 誌の ISN 京都大会特集号：締切は 2021 年 11 月 30 日
- ・鍋島トラベルアワード、ISN トラベルアワードもこれから募集予定。
- ・ISN 京都大会関連についてスクールについては詳細が決まり次第、ホームページ、メーリングリスト等で案内予定。

⑤研究助成金等候補者選考委員会

今泉和則委員長より、以下の通り報告があった。

2021 年 4 月から 9 月における学会推薦公募案件は 10 件あったが、応募、推薦とも無かった。今後もたくさんの公募案件があるので、学会員から奮って応募いただきたい。

⑥脳研究推進委員会

林（高木） 朗子委員長より、以下の通り報告があった。

(1) 2022 年大会での企画

(1-1) シンポジウム：量子力学などの物理系、AI などの情報系、化学、日本ブレインバンクネット、創薬など。

(1-2) 製薬とのマッチングイベント

(1-3) With/Post コロナを見据えた小規模なオンサイトの成果発表会

(2) 既に企画が進行しているイベントに共催で参画し、日本神経化学会会員へ公開する。

(2-1) 次世代脳への参画（新学術領域・マルチスケール脳が主催「基礎神経科学と臨床精神が融合したブレークスルー研究の育て方」ワークショップ

(2-2) 地域精神保健福祉機構 (COMHBO) リカバリー全国フォーラム 2021 への参加)

⑦連合大会・多分野交流委員会

尾藤晴彦委員長より、以下の通り報告があった。

- ・本大会での多分野企画講演は、昨日、成功裏に修了。
- ・2022 年度の第 65 回大会は、日本神経科学学会・日本神経回路学会との合同大会 Neuro2022 として開催予定。
- ・2023 年度の第 66 回大会は、日本神経病理学会との合同大会として構想作り進展中。
- ・2024 年度の第 67 回大会においては、小泉修一大会長の下、特にグリアというテーマにフォーカスを当てるため、日本神経科学学会ならびに日本生物学的精神医学会との合同大会とすることが、

昨日の理事会にて承認された。

⑧利益相反委員会

堀修委員長より以下の通り報告があった。

- ・利益相反について特段の報告事項は発生していない。

⑨ダイバーシティ推進委員会

村松里衣子委員長より、以下の通り報告があった。

- ・男女共同参画学協会連絡会の調査への協力と連絡会へのオブザーバ参加を実施。

⑩臨床連携委員会

望月秀樹委員長より、以下の通り報告があった。

- ・日本神経学会（5月）学会横断シンポジウム実施。
- ・日本精神神経学会（9月）にて、神経化学のシンポジウム実施。コロナ禍でオンサイト開催、満員で大変盛況であった。
- ・2023年合同大会の、日本神経病理学会側の大会長は望月委員長。神経病理との合同は初の試みとなるが、皆さまのご支援のもと、盛り上げていきたい。

⑪倫理委員会

小野賢二郎委員長より、以下の通り報告があった。

該当事例がなく委員会の開催はなし。

⑫若手育成委員会

照沼美穂委員長より、以下の通り報告があった。

- ・若手研究者の大会での講演の場である若手道場と若手育成セミナーは、昨年に引き続きコロナ禍での開催に伴い、発表方法並びに開催方法について変更が生じたが、たくさんの若手研究者の皆様にご参加頂いた。道場の審査のご協力いただいた先生方へも感謝申し上げます。
- ・来年の沖縄での Neuro2022 の若手道場、若手育成セミナーにも引き続きご支援を賜りたい。

⑬法人化推進委員会

小泉修一委員長より、詳細については議題第14にて報告のうえ、審議とする旨説明があった。

8. 2021年度優秀賞・奨励賞選考結果報告

等誠司委員長より、本年度受賞者について以下の通り報告があった。

【優秀賞】 1名

氏名：森 康治

所属：大阪大学 大学院医学系研究科 精神医学

テーマ： *C9orf72* リピート伸長変異による前頭側頭葉変性症の分子病態

【奨励賞】 2名

氏名：阿部 欣史

所属：慶應義塾大学 医学部精神神経科学教室

テーマ：新規 fMRI 技術を応用した精神疾患モデルマウスの機能解析

氏名：白鳥 美穂

所属：九州大学 大学院薬学研究院薬理学分野

テーマ：脊髄変化を切り口とした慢性搔痒メカニズムの解明

(50音順／敬称略)

9. 2020年度決算の件

村松里衣子会計担当理事より、2020年度決算について報告があり、本件について議場に諮ったところ、異議なく承認された。

10. 同監査報告

村松里衣子会計担当理事より、2020年度収支内容及び財産状況について、田代朋子監事、遠山正彌監事、両監事より、適正である旨確認されたことが報告された。
本件について議場に諮ったところ、異議なく承認された。

11. 2022年度予算の件

村松里衣子会計担当理事より予算案が提案され、本件について議場に諮ったところ、異議なく承認された。

12. 評議員選任の件

照沼美穂庶務担当理事より、231名の評議員の次期継続につき理事会より推薦された旨報告があった。本件について議場に諮ったところ、異議なく承認された。※任期：2025年総会終了まで
(継続評議員の名簿については後日学会ホームページへ掲載する)

照沼美穂庶務担当理事より、新評議員として以下の1名が理事会より推薦された旨報告があった。
※任期：2025年総会終了まで

有村 奈利子	国立精神神経医療研究センター病態生化学研究部
--------	------------------------

本件について議場に諮ったところ、異議なく承認された。

13. 功労会員推薦の件

照沼美穂庶務担当理事より、功労会員として以下の2名が理事会より推薦された旨報告があった。

(50音順／敬称略)

福永 浩司	東北大学大学院 薬学研究科薬理学分野
丸山 敬	埼玉医科大学 医学部薬理学教室

本件について議場に諮ったところ、異議なく承認された。

14. 名誉会員推薦の件

照沼美穂庶務担当理事より、名誉会員として以下の2名が理事会より推薦された旨報告があった。

(50音順／敬称略)

田代 朋子	青山学院大学 元教授
遠山 正彌	地方独立行政法人大阪府立病院機構

本件について議場に諮ったところ、異議なく承認された。

続けて名誉会員の推戴式を行った。

15. 法人化について

小泉修一法人化推進委員会委員長より、法人化のスケジュールにつき説明があった。2021年12月31日までに、現任意団体「日本神経化学会」から法人化後の「一般社団法人日本神経化学会」へ会員・財産を移管することについて、議場に諮ったところ、異議なく承認された。

16. 次期大会および開催地の件

＜ 第65回(2022年度)大会 ＞

竹居光太郎第65回大会長より第65回日本神経化学会大会について、以下の通り報告があった。

(Neuro2022 合同大会)

会 期：2022年6月30日(木)～7月3日(日)4日間

場 所：沖縄コンベンションセンター

日本神経科学学会、日本神経回路学会との合同大会となる。各シンポジウムの内容、特別講演などが固まってきた。今後ホームページに随時アップしていくのでご覧いただきたい。

＜ 第66回(2023年度)大会 ＞

今泉和則第66回大会長より第66回日本神経化学会大会について、以下の通り報告があった。

(日本神経病理学会との合同大会)

会 期：2023年7月6日(木)～8日(土)3日間

場 所：神戸国際会議場

テーマ：Next Neuro—分子と形態の融合の先に

コロナの状況によりハイブリットもありうる。最終判断は2023年4月とする。

17. その他

田中謙二将来計画委員会委員長より、フラッグシッププロジェクトについて以下の報告があった。将来計画委員会と脳研究推進委員会との合同にて、科学政策立案の参考になりうるプロジェクトを蓄積していきたいということでこれからワーキンググループを立ち上げる予定。

以上を以て、予定した全ての議事を終了し、2021年度総会を閉じた。
続けて2021年度優秀賞・奨励賞授与式を行った。